◉釜石地方再報　別項の海嘯事件に付き縣屬江釣子豊次郎畠山誠二郎の二氏は救護取調として江釣子氏は釜石地方に畠山氏は氣仙地方に昨日午後出張せらる又赤十字社よりも梅内祐規鎌平準一氏看護人各一名宛つを伴ふて鎌平氏は釜石に梅内氏は氣仙に救護の爲め同日出張せらる又小野縣屬は久慈地方へ事情視察の爲め昨日午後出張又本日の一番汽車にて警部一戸武雄氏及び縣屬一戸信雄氏は氣仙に午後出發せらる

電報

◉遠野電報

昨夜釜石町海嘯の爲め全町過半流失、人畜の死傷夥し、電信局も流失、電信不通

飛電俄然慘報を告げ來る、其の本日午前九時四十五分遠野發の電報は左の如し

今朝盛町海嘯の爲め人畜の死傷無數

又た仝日午前九時四十分仝町發の電報は左の如し

電報簡にして今其の狀況を詳かにする由なしと雖も酸鼻悲慘推知すべき吁

（昨日號外再揭）

◉遠野電報（六月十六日午後〇時四十五分發）

大槌町海嘯の爲め流失家屋百數十戸溺死者數十人委細取調中

◉釜石の災難に就ては過半人死し生存者飢餓に苦み救助中

◉遠野警察署及び同郡衙吏員釜石に出張救助盡力中

◉八戸電報（六月十六日午後三時三十分發）

久慈町海嘯起り戸數百戸流失人畜の死傷不尠電信不通

◉罹災地出張　今回の海嘯罹災地へ村上參事官北村木村美粉の三縣屬黒田佐土原小崎の三警部外巡査三名何れも昨日出張

◉本社員災害地に出張　別項報導せる釜石町盛町の海嘯に付き右罹災地へ取り敢へず本社員日戸勝郎を派遣したれば災害慘況は最も迅速且つ最も詳細に報導すべし

◉今回の海嘯に就て　今回の海嘯は今其の詳報を知るに由なけれども獨り釜石、盛のみに止らずして東海岸一帶多少此の災に罹りたるものあるべしと云へり尙は靑森縣鮫港地方も海嘯の爲め非常の慘害に罹りたりとの噂さあり

◉釜石、盛の海嘯　一昨夜來、昨朝に懸けて當市に於ても數回の地震あり只事ならずと思ひ居りしに昨日に至り號外を以て報ぜたるが如く計らずも釜石、盛等の悲むべき海嘯慘害の報を聽くに至れり天災如何ともし難しと雖も其の父母兄弟妻子の相抱き相擁し流離困頓の際に悲泣哀號生命を激浪怒濤の間に失ひ幸ひに萬死の中より一命を免れたりとせるも或は身傷き或は其の住を失ひ宙字に彷徨し饑寒交々至るの樣は想ひ遣りても酸鼻の極、誰れか暗淚悲喞に咽ばざるものあらんや仝胞相恤の義與に今日に譲せざるべからず左れば差し當り吾等罹災人民救恤の一事は實に刻下焦眉の急務として此事たる獨り當局の人に委任すべきものにあらず苟くも眼底淚あり皮下血あるものは共に與に務めて此の急務に應ぜざるべからず、嗚呼慘事なる哉

◉原公使の招待　昨日當市の重立つ紳士等發企にて官民合同して秀清閣に原公使を招待し送別旁々同氏の談話を聽聞したりと

◉後進會より原公使を招待す　當市の有志者發起とありて當市には先進後進の連絡就かずして兎角に隔離せるの有樣あるより此の如くにては將來誘導開發の途啓けず人材の養成であれ事業の發達であれ覺束なきを憂ふるの餘り見出しの如き會合を組織し幸ひ當市出身原朝鮮公使の來盛を期とし此に本日同氏を招待して午後より（杜陵館）同氏の談話を聽聞するとし其發起人の姓名は左の如し

中河原寛、齋藤左一、新渡戸仙岳、田鎖直三、上村才六、平野重次郎、坂牛祐直、日澤清道、大光寺忠観、日戸勝郎。

◉養蠶奨勵の數へ歌　養蠶傳習所等に於て生徒か桑園に出て摘桑などをなす際往々卑猥なる謠をうたうを矯正せんとて某氏は左に揭ぐる數へ歌をものしたりと

一ツトヤー　廣い世界に輸出する　品は日本の生絲あり〱

二ツトヤー　古き手段を改良し〱　進んで務めよ蠶飼道〱

三ツトヤー　皆々富源を見めあゐ〱　蠶業措ては外になし〱

四ツトヤー　良き桑撰んで三種類　早生中晩生を植しやんせ〱

五ツトヤー　如何程產出多くとも〱　需用の廣きは生絲也〱

六ツトヤー　無益の土地には桑植て〱　蠶業せよかし國の爲〱

七ツトヤー　難儀と思ふは五日間〱　五齡の期節に有ぞかし〱

八ツトヤー　矢鱈に掃立多くせそ〱　人夫や桑には注意せよ〱

九ツトヤー　黃金を積取る其もと〱　生絲の輸出か第一よ〱

十トヤー　年々開くる蠶業に〱　一日も早く從事せよ〱

◉葬具屋の競爭　近頃當市に葬具會と稱する葬具屋を設置したるものありて其の入會株は上一圓中五十錢にて入會者中にて死亡者のあるときは上には十圓位、中には五圓位の葬具を貸與し又會員外には從來の葬具屋の相塲よりはグッと廉價に引受くるより從來の葬具屋にては一の恐惶を來たし是れではならぬと之れも舊來よりの弊習を改めヤッキとなりて競爭中、兎角何事も競爭の世なる哉

◉妙齡の美女一夜に男子と化る　目下帝國大學第一醫院に入院し居る不思議の患者あり今歲十七歲の花恥かしき令孃あるが俗にいふ裏なりといふ病症にて普通の陰阜の下に小指ほどの肉ある內面に垂れ居れど陽物の如く尿道はあく陰門より放尿する樣になり居りしが親達は偏へに女子なりと思ひ定め戸籍面さへ女子と屆け置きしに今度醫師の診斷によりて男子と定まり彼の贅肉を上方に向け直し下方の尿道と相通ぜしめ從來陰門と思ひ居りしところを縫合せしに是迄の贅肉は一の陰莖となりぬされば全治の上は花の如き美女忽ちに美少年となりぬべし此外にも陰部より臍に向け又た右の股にかけ幅一寸位に一面に疣贅を生じ其醜狀見るに堪へざりし患者ありしを同院の手術にて悉皆除き去り又た一人は廿三四歲の男子あるが腰のあたりより臀にかけ六七寸位のところ一面に黒毛を生じ恰も頭髮の如し主任醫は先づ毛部の中央より上より下へ掛けて切解し皮膚の毛根を去り治療せる筈あると珍らしき病氣もあるものかな

◉狂犬退治　市內本町猫橫町邊に赤斑の狂犬ありて通行人に吠へかゝり危險きはまる次第なりしが一昨日退治したるは何寄り〱尙は其他にも斯る狂犬ありと云へば速かに退治ありて然るべし

◉訂正　昨日の紙上に原公使の宿處を仁王小路原恭氏方と記せしは臨奥館の誤りに付き訂正す

◉大日本私立衞生會　第三回衞生事務講習は本年九月十五日より開始の趣きを以て講習者募集に付き志願者は來る七月三十一日迄に願書差出すべしとなり

◉痘瘡患者　東磐井郡千厩村菅原アサへ（十三年十ケ月）同ハルヱ（五年四月）は本月八日發症にて痘瘡病に罹り目下治療中

◉巖手物產陳列塲縱覽人　は六月十一日六十五名同十三日四十四名同十四日二十三名なりし

◉產馬聯合會　仝會は一昨十五日より開會せしが仝日は出席者少數にて休會となり昨十六日は午前十時半より開會し會員一同着席し村上參事官より縣聯合組合會成立に到るまでの事務頓末報告之れ有り夫より協議會を開き假會長を撰擧したるに阿部豊年氏は當撰となり同氏會長席に着き第一に產馬組合規約を認めて加入したる九戸組合を聯合と見做すや否に付き決議し並に二戸組九戸組より提出したる條件を是認するや否の件に付き兩條とも承認する事に決定せり了て本會に移り此回も阿部豊年氏會長に當撰せられ一と先つ休憩尙は午後會議を催したりと出席人名は九戸郡の古里小八郎盛岡市上田醇一同じく伊藤富藏同じく遠藤專治南閉伊郡佐々木彌八寺田熊谷金吾遠野町菅沼仙太郎北岩手郡工藤包吉、八角金若、花巻町阿部豊年二戸郡高村喜代助江刺郡八重樫源之助西和賀郡中川與市黒澤尻町佐藤勘太永澤町桑島甫三郎沼宮內町三谷茂助の諸氏なりと仝日岩手縣產馬各組聯合會順序は左の如し

岩手縣產馬各組聯合會順序

第一　昨年十二月より今回成立に至りたる迄の手續報告　但縣官之を報告す

第二　假會長の撰擧

第三　別案の產馬組合規約を認めて加入したる九戸組合を聯合と見做すや否やの決議

第四　二戸組九戸組より提供したる條件を是認するや否

第五　會長の撰擧

第六　事務長の撰擧

第七　收支豫算

◉白根遞相の關西行　白根遞相は關西地方各鐵道郵便電信等の實況視察の爲め出張せらるべしと

◉陸軍騎兵少佐　西畑擧氏は昨日來盛縣廳に出頭村上參事官と面談したり

◉司令部被命　豫備陸軍二等書記大町壯氏は此程盛岡聯隊區司令部付を命ぜらる

又二戸九戸兩郡の產馬組合決議は左の如し

二戸郡產馬組合決議

一　岩手縣各組產馬聯合規約中初期の聯合會に於て左の條件を加へさるときは本組は各組聯合を脫すへき事

各組聯合規約は各組の承認を得るにあらされは變更增減することを得す

各組聯合事務所の經費は一ケ年金參百圓を超ゆるを得す但各組合の承諾を得たるときは此限に在らす

各組聯合事務長の職務は當分の內本縣高等官在職者に依托すると

九戸產馬組合決議

岩手縣產馬各組聯合の件に付明治二十九年五月六日町村長及町村馬主惣代人南九戸郡久慈町（元和賀平七宅）に於て協議會を開き本郡長會長となり左の通決定せり

一　別紙岩手縣產馬各組聯合規約各條項に依り聯合を可決す

二　第二十三條に本規約は永遠を期すと雖も一期を四ヶ年とするの條項を加ふ

右決議の正確を證する爲め捺印す

◉發行停止　昨日發行の日本新聞は治安妨害にて

◉南巖手郡太田村農業補習學校　二十九年度經費豫算は會て認可稟請中の處今般文部大臣より認可せらる

◉文藝俱樂部第二卷第七編　は小杉天外の「村の名物」水谷不倒の「危い處」石橋忍月の「束髮娘」稻舟女史の「小町湯」山岸薮鶯の「離緣狀」小倉山人の「羽拔鳥」龍香女史の「明月」泉鏡花の「二の卷」等群芳研を競ふ雜報欄內又趣味ある記事饒く木版彩色の口畵及び卷首美人等の寫眞銅版畵等例に依りて鮮明瀟洒濛々たる梅霖の際遣鬱の好伴侶たり發行所東京日本橋區本町三丁目博文館

◉巣林子戲曲　停春樓主人著「近松著作一班」の附錄として東京々橋區日吉町民友社より發行せらるゝもの巣林子の戲曲に於ける天品ある此の書「大磯虎稚物語」「曾我扇八景」「傾城島原蛙合戰」「大磯冠」「燦辭胎內捃」「持統天皇歌軍法」等を網羅し篇々皆金玉の響きあり停春樓主人か古代文學界の大偉人を紹介せるに務むるの勞を多とするものなり

◉氣象（六月十六日午前十時觀測）

溫度	攝氏	二十二度五分
	華氏	七十二度五分
風	風向	靜穩
	風力	
天氣		雨
雨量		九粍五
雪量		……
雲量		十分

◉盛岡相塲　一石ニ付

◎仙北町口　玄米上八圓廿五錢○同中八圓五錢○同下八圓九拾五錢○白米上九圓錢廿○同中九圓○同下八圓七拾錢○玄糯米上八圓九拾錢○同中八圓五拾錢○同下八圓三拾錢○白糯米上拾圓五錢○同中九圓五拾錢○同下九圓三拾錢○精粟六圓四拾錢○大豆五圓七拾錢○小豆六圓五拾錢○大麥參圓四四拾錢○小麥五圓貳拾錢○搗麥六圓五拾錢○大角豆七圓二拾錢○白大角豆九圓○蕎麥三圓四拾錢

◎茅町口　玄米上八圓二拾錢○同中八圓拾五錢○同下八圓拾錢○白米上九圓二拾錢○同中九圓○同下八圓二拾錢○玄糯米上八圓五拾錢○同中八圓四拾錢○同下八圓貳拾錢○白糯米上九圓七拾錢○同中九圓五拾錢○同下九圓○精粟七圓○大豆五圓五拾錢○小豆七圓○大麥參圓八拾錢○小麥五圓拾錢○搗六圓七拾錢○大角豆六圓七拾錢○白大角豆八圓六拾錢○蕎麥四圓五拾錢

◉常置委員歸盛　本縣會常置委員高橋嘉太郎氏は東磐井郡各町村へ地方稅事業視察として巡回中の處一昨日歸盛

◉民法施行法　民法施行法と法例とは十月來る迄に草案の調査を終へ第十議會に人事篇と共に提出する筈なりと云ふ

通信

◉花卷通信（六月十四日發）

◎佐藤代議士上京　過般杜陵に於て施行せられたる臨時招魂祭へ臨席其他の用件を帶び歸省中なりし代議士佐藤昌藏氏には去る五日終列車にて當地出發上京の途に付かれたり

◎照井眞臣乳氏　里川口尋常小學校訓導同氏には徵兵令第十一條第二項に依り六週間現役兵として去る二日出仙せられたりと

◎及川恒昌氏　當地大工町出身陸軍步兵大尉正七位勳六等功五級同氏は過般從軍紀章條例に依り從軍紀章を授與せられたり

◎島時中氏　隣村矢澤村出身第一師團監督部第一課長陸軍三等監督同氏は過般免本職補第一師團監督部第二課長兼同部第一課長の處此程其兼職を免せられたり

◎城小七郎氏　當地下町出身陸軍步兵一等軍曹たる同氏は這般明治廿七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章及び年金三十六圓を授與せられたり

◎伊藤孫藏氏　隣村根子村陸軍步兵一等卒同氏は召集のため去る二日仙臺に出發せられたりとのことあり

◎武者修行　東和賀郡二子村小鳥崎小笠原德次郎なる人は大の擊劍好きにて三度食ふ飯を四度食つても手に竹刀を取らなければ氣が澄まぬと云ふ熱心家だけありてメキ〱と腕前が上り是れなれど何處へ行つてもツウは擊ち込まれることもあるまいと半袴に麻裏草履竹刀の先に道具を引掛け過日當地に來りて古老を尋ね一本を試みたるにイヤハヤ世の中は廣いもの一年級の末席程の腕前なれは相手の方も氣の毒に思ひ能く〱斯道の道理を說示し一先づ歸村せしめたりとのことなるが好きこそ物の上手なりで何んでも是れから一奮發屈せず撓まず修行せられよ

◎凱旋祝賀會　隣村根子村に於ては明治廿七八年の役に出征したる兵士五名軍夫二十二名何れも凱旋せられたるに付き過般其祝賀會を同村圓通寺に於て施行せられたるが會するもの村役塲吏員は勿論村會議員區會議員赤十字社員學校教員生徒其他有志諸氏一百有余名式塲村長開會の趣旨を述べ伊藤竹次郎軍夫二十人長に瀨川榮助兩氏乃答辭及び伊藤上等兵の軍人に賜はりし詔勅を最も謹肅に拜讀あり此間順直に生徒乃軍歌あり式全く終り夫より酒宴に移り席上二三諸氏の快活なる演說等あり中々の盛會にて午后七時頃散會したりと因に記す兵士諸氏には當日紀念として縮緬の一大國旗に謝狀を添ひ贈呈したりと云ふ

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。